

CRAG 5H-114.3 / 4H-100 & **デリカミニ**

お洒落も性能も
アシモト
車輪
から

実はT-GRABICⅢは、これまでのシリーズがアイデンティティとして採用してきたビードロックリングテストから一変、アウトタームフランジはスッキリとした仕上げ。リムフランジより内側に、ピアスポルトホールに見立てたディンプルのみを配置した。



レッドラインを採用したオーナメントのセンターキャップでデザイン性を向上。シンプルに美しく演出する。



WORKが放つOFF代表2種は全地形を制する攻めフォルムが魅力

あらゆる地形を乗りこなすホイールであることを至上命題とするブランドだ。

その中でもレニス直系のDNAを細部に宿し、同ブランドを代表するモデルが「T-GRABICⅢ（ティーグラビック）」。「そこから「T-GRABICⅡ」を経てさらに強靱となり、新たな機能美を得たのが、今回デリカD:5とマッチングした6ツインスポークデザインを採用した「T-GRABICⅢ」だ。

オフロードレニスのノウハウが随所に盛り込まれたホイールであり、砂の排出性や衝撃に耐える強度、タイヤを保持する性能など、どのディテールにも意味がある。例えばツインスポークの外周部には設けたトラス形状（トラスフレーム）は、ホイールの剛性を高め、強度を確保する役割を担いながらTGRⅢ独自のデザインを演出している。

一方、デリカミニに装着して注目なのが「CRAG CKV（クラッグ・シーケーブイ）」。軽SUVや軽トラ・軽バンにターゲットを絞った4H・100のみ（14/15/16インチ）の設定だが、圧倒的なアグレッシブさを誇る。

そもそもすべてのCRAGホイールにはオフロードボトムの

王道テイストと、確かな走れる性能がある。このCKVの8交点メッシュデザインにおいても、ディッシュをイメージさせる骨太な意匠を採用する。また、T-GRABICⅢで追求してきたリアルなビードロックリング形状は、斬新なアピアランスと質感でしっかりと踏襲されている。

今回CKVをマッチングしたのは「ロードハウス」が手掛けたチョイ上げのデリカミニ。同社はベース車の持ち味を生かしたファンシーなスタイルも模索しているが、このCKVの装着によってまずは4WDらしさをアピールする方向のカスタムへシフト。1インチのリフトアップで、タイヤを純正にないカスタムサイズとなる「165/65R15」のジオランダーX-ATへ変更。外径は大きくなったが、ホイールハウスへの干渉はなく、段差の乗り越えも問題なし。ブラックマシニングカットクリア違いカラーでよりオフロードを強調したアグレッシブなスタイルになった。



クラッグ・シーケーブイ CRAG CKV

14
インチ

15
インチ

16
インチ

「WORK」ロゴを配したセンターキャップは光沢のあるグロスブラック仕様。センターロックテストを取り入れた存在感のあるキアデザインが、全体を引き立てている。

SIZE	INSET	HOLE-P.C.D.	PRICE
14x4.5J	45	4H-100	¥29,700/本
14x5.5J	38		¥30,800/本
15x4.5J	45		¥33,000/本
16x6.0J	38		¥37,400/本

●カラー：ブラックマシニングカットクリア
●仕様：鍛造1ピース ●安全基準：JWL/JWL-T/VIA規格適合
●付属品：センターキャップ、バルブ

- 装着ホイール：CRAG CKV（ドライグレイ/ブラックキャット）/15x4.5J インセット45/4H-100
- 装着タイヤ：YOKOHAMA GEOLANDAR X-AT（165/65R15）
- MODEL CAR：KADDIS DELICA MINI / 1インチアップ 撮影協力：ロードハウス（<https://roadhouse.co.jp>）

デザインリングを貫通するスクエアデザインウィンドーを2カ所に配置して、ストレスフリーなエア充填が可能。機能的なデュアルアクセントとしている。

16
インチ

17
インチ

クラッグ・
ティーグラビック
スリー

CRAG T-GRABICⅢ

D:5もデリカミニも
CRAG OFF 感アップ
アルミホイール装着における大原則である「スタイルアップもパフォーマンスアップも足もとから」を満たし、さらにオフロードに特化したWORK発の四駆専用ホイールシリーズ「CRAG（クラッグ）」。「CROSSOVER RACING GEAR」に由来するブランド名を持ち、平地だけでなく、野原・丘陵地、森林など、舗装されていない山道やマッドなど、



老舗4WD・SUVプロショップにして、デリカやランクルを中心としたカスタムパーツメーカーの顔も持つ「ロードハウス」。今回T-GRABICⅢをマッチングしたのは、同社が兼ねてから提案するカスタムスタイルのうちのひとつ「KADDIS AR4スタイル・デリカD:5」。迫力のリフトアップ&ワイド化の「KADDIS エクストリームスタイル」に対して、日常使いの快適さは残しながらオフロード性能をアップするという「オールラウンド4WD」がコンセプト。そのためリフトアップ量は1インチと控えめだが、16インチのBFG・A/Tタイヤとの王道コンビネーションを実現。

カラーは各サイズに2種類。定番のマットブラックのほか、独立したスポークに天面ポリッシュ加工を行ったブラッククリアグレーを設定。今までにないCRAGのカラバリエーションで、その世界観を広げている。



SPECIFICATIONS
CRAG T-GRABICⅢ

SIZE	INSET	HOLE-P.C.D.	COLOR	PRICE
16x7.0J	38	5H-114.3	MAT BLACK	¥44,000/本
			BLACK CLEAR GRAY	¥50,600/本
17x8.0J	20	6H-139.7	MAT BLACK	¥51,700/本
			BLACK CLEAR GRAY	¥58,300/本

●カラー：マットブラック、ブラッククリアグレー
●仕様：鍛造1ピース ●安全基準：JWL/JWL-T/VIA規格適合
●付属品：センターキャップ、バルブ

6ツインスポークデザインを採用し、スポークをリムに差し掛かる直前に落としたコンケイブ形状とすることで、足長感を披露。ツインスポークより1段下の外周部には、独自形状のトラスフレームを設定。これはT-GRABICⅢのデザインを演出するだけでなく、ホイールの剛性や強度の確保にも貢献している。

- 装着ホイール：CRAG T-GRABICⅢ（ブラッククリアグレー）/16x7.0J インセット38/5H-114.3
- 装着タイヤ：BFGoodrich All-Terrain T/A KO2（LT235/70R16）
- MODEL CAR：KADDIS AR4 DELICA D:5 / 1インチアップ 撮影協力：ロードハウス（<https://roadhouse.co.jp>）



スポーティカーやミニバンなどのエントリーが多数を占めていたが、近年のSUVの盛り上がりも反映し、バラエティ豊かな車種が参加。同じ仕様のクルマは全く見当たらないし、SUVに敢えてCRAGとは異なるブランドを組み合わせるなど、それぞれのユーザーのこだわりを感じることができた。

AWARD



SUV部門の最優秀賞に輝いたのは、ガルパトレを装着した磯さんのD:5。リフトアップ&オーバーフェンダーを装着するので、かなり深いリムが必要。そこで選んだのが、サイズバリエーションが豊富なガルパトレ。500通り以上のカラーバリエーションが楽しめるので、自分だけのカスタムが実現可能だ。



WORKを積極的に扱うプロショップがWHEEL JACKを主催するが、もちろんWORKもブースを出展。現行モデルの展示はもちろん、2024年に発売する新作モデルを先行で展示。田中社長もユーザーと触れ合い新たな製品づくりのヒントを得ていた。

全参加車両がWORKを装着する夢の様なイベント

EVENT REPORT
19th Nov 2023

開催場所 ● 兵庫県・三木市立かじやの里メッセみき・駐車場
主催 ● 株式会社グッドカンインターナショナル
(<https://workwheelsjack.amebaownd.com/>)
共催 ● Car Shop YSR
協力 ● 株式会社ワーク (<https://www.work-wheels.co.jp/>)
PHOTO ● 浅井岳男 TEXT ● 空野稜



WORK WHEELS JACK 3rd
WORK WHEELS User event



NITTO JAPAN

ホイールと一心同体と言うべきタイヤ。しかもカスタムに積極的に取り組むNITTOタイヤが、ブースを出展。カスタムに最適なデザイン性をアピールしていた。

WORKホイールが集結するリアルショーケース!

国産車から輸入車、パセッジャーカーからSUVまで、あらゆるクルマのホイールをラインアップするWORK。ドレスアップ用のイメージが非常に強いが、本格的な4WDユーザーのためにCRAGブランドも展開しており、華やかさだけでなく質実剛健さも魅力と言えるだろう。

そんなWORKを愛用する様々なユーザーが一堂に集結する「WORK WHEEL JACK」が2023年11月19日に開催された。3回目の今回は兵庫県が会場で、オートサロンさながらWORKのほぼ全商品を展示。WORK田中社長は「ユーザーにとってパラダイスの様な空間で思い切り楽しんでください。でもホイールは命を預ける重要な部品。デザインだけでなく性能も重視して選んでくださいね!」と力説していた。

今回は約200台がエントリー。イベントのラストには各ジャンル別にアワードが発表され、SUV部門では2年連続でエントリーした磯さんのD:5が受賞。記念品の盾も贈られ、参加者は皆次回の再会を誓ってWORK WHEEL JACKは無事幕を閉じた。